Shinshu University Journal of Educational Research and Practice, *No.4*, pp.213-223, 2011
信州大学教育学部研究論集　第４号　pp.213-223　2011年

〈実践報告〉

「信大茂菅ふるさと農場」における学生の気付きに関する考察

―「生活科指導法基礎」の授業づくり―

土井　進　信州大学教育学部教育科学講座

キーワード：生活科指導法基礎，信大茂菅ふるさと農場，気付き，林部信造氏，JA ながの

１．「信大茂菅ふるさと農場」における「生活科指導法基礎」の授業づくり

「生活科指導法基礎」の授業は，長野市茂菅地区の林部信造氏のご協力のもと，JA ながのから約 12 アールの田畑を借り受けて開墾した「信大茂菅ふるさと農場」で行なっている。この農場において学生が農作業体験にとり組むことによって，具体的な気付きや学びを得る事を目的としている。シラバスにおいては，この授業のねらいを次のように示した。

「長野市茂菅地区に開設した「信大茂菅ふるさと農場」（11 年目）までの往復の道のりにおいて，地域社会の人々とのふれあいを体験する。また，米づくり，じゃがいも，サツマイモづくりなどの農作業体験に取り組むことによって，食物を生産することの大変さを実感し，食育の重要性に気づく。また，農作業体験で汗を流すことによって，学生同士のコミュニケーションを活発にする。さらに水田や畑にいる様々な植物や動物とのふれあいを通して大自然の営みに気付く。教科書『小学校学習指導要領解説・生活編』を熟読することを通して，「生活科」の２年間にわたる年間指導計画の作成と単元の指導計画を作成する。(1)」また，このような授業のねらいを実現するために学生が達成すべき目標として次の６点を，シラバスに掲げた。

① 茂菅地区の人々に出会ったら明るく元気なあいさつができること。
② 茂菅までの道中では交通安全に十分気をつけること。横に広がらないで１列で歩くこと。
③ 畑や水田での農作業に主体的に参加することによって，自然とふれあうことの喜びを体験すること。また，自然体験活動の人間形成的意義について自分の考えをまとめることができること。
④ 農作業の活動を学生同士が協働で行うことによって，人と人がふれあう喜びを体験すること。また，社会体験活動の人間形成的意義について自分の考えをまとめることができること。
⑤ 様々な自然体験や社会体験を通して，自分自身や自分の生活について考えるとともに生活科の授業を構想することができようになること。
⑥ 「土づくり」に取り組むことによって，良好な自然環境を維持するとともに，人間の心に天地自然の恵みに対する感謝の念を育み，「土づくり」は「人づくり」につながることを体得すること。(1)

2．学生の気付きの分類と考察

学生が茂菅での活動や体験を通してどのような気付きを得たのかを明らかにするために，次のような小論文を課題とした。

「信大茂菅ふるさと農場」における具体的な活動や体験を通して，あなたが「気付いた」ことを3点にまとめ，それぞれに「小見出し」を付けて述べなさい。

この課題に対して学生から出された気付きの豊かさに対して，筆者は感動を禁じ得なかった。学生の感性は大変豊かである。学生は茂菅での一つ一つの具体的な活動や体験を通して実に豊かな感性を働かせて，しっかりとした気付きを体得している。このような学生時代の体験が核となって，やがて各学校現場で子どもたちと心の通い合う生活科の教育実践を展開してくれることが，大いに期待できると思った。この授業を履修した学生は一人残らず，鍬を使い，鎌を研いで，草刈りをし，生ゴミや刈った草を野積みにする堆肥づくりを実践することができる力をつけたといえよう。

この学生たちの「気付き」を生活科の9つの内容項目である ①学校と生活 ②家庭と生活 ③地域と生活 ④公共物や公共施設の利用 ⑤季節の変化と生活 ⑥自然や物を使った遊び ⑦動植物の飼育・栽培 ⑧生活や出来事の交流 ⑨自分の成長 に即して分類した。以下に取り上げた学生の気付きは，平成22年度前期の「生活科指導法基礎A」を受講した70名が記述したものである。この中から優れているものを抽出し考察を加えることにする。

2.1 (1)「学校と生活」の項目に関する気付きと考察

①〈机上の学習との違い〉農場における活動は，大学における机上の学習と違って，直接体で学ぶ。いくら理論的なことだけを学んでいても，活かすことが出来なければ何の役にもたたない。実際に目で見て，体感する学習こそ知識の定着と活用につなげられる大切な学習方法であると学んだ。

②〈教室では学べない学び〉この授業では，班で育てたいものを決めて，その作物を1から自分たちで作りました。学校の教室で作り方を習うだけの授業では学べなかったことをたくさん学ぶ事ができました。例えば，草取りの大変さ，川に足をいれないと汲む事のできない水，なかなか育たない作物，そして，大事に育てた作物がなくなってしまった悲しさなど，実際に自然に触れあってみて気づけたことが多かったです。自分たちが普段食べている野菜も，誰かがこのようなたいへんな思いをしながら育てた大切な野菜だということに気付きました。

③〈畑仕事の経験がない人〉農場では班ごとに畝を作って自分たちの好きな野菜を育てることが出来ました。その班での活動で畝を作っているときに，全然畑仕事をやったことがないという人がいました。その人はやっぱり畝を作るのも上手く出来ませんでした。私は，小学校の授業で畑仕事があったので，そんな人がいるのかと驚きましたが，そういう人に自分の持っている知識や技術を伝えることが大切だと気付きました。

（考察）①の事例は，生活科の学習においては学校を離れた校外での体験学習の重要性を指摘している点が優れている。②の事例は，実際に作物を育ててみることによって得ることのできた喜びや悲しみについて述べ，生活科においては校外に出て人々や自然とふれあう活動や体験が重要であることについて指摘している点が優れている。③は生活科において栽培活動を経験したことのある学生と無い学生の仕事への取り組みの差についての気付きであり興味深い。学生時代に茂菅農場で栽培活動を体験したことは，今後教師となったときに生きてくる学習であると考える。

2.2　(2)「家庭と生活」の項目に関する気付きと考察

①〈りんご農家の方の大変さ〉私たちの生活科指導法基礎の授業を支えて下さっている林部さんのりんご農園にお邪魔したことがありました。そこで，私たちは微力ながらも花摘みのお手伝いをさせて頂きました。リンゴの花が白いということは知っていたけれども，実際にあんなに近くで花を見たのは初めてだったので，とても貴重な体験となりました。摘花の際には，５つある花の真ん中を残して，その周りの花を摘むようにと教えていただきました。しかし，この作業は本当に大変でした。先ず，どの花をつむのかを，直ぐに，正確に判断しなくてはいけません。また，常に上を向き，手も挙げっぱなしなので，疲れてきます。このような作業を林部さんは，一人でやっていらっしゃると聞いて，とても驚きました。スーパーに行くとリンゴはそんな高い値段ではありませんが，リンゴ農家の方の仕事のほんの一部ですが知ることができて，リンゴ農家の方々の有り難みを感じるようになりました。

②〈父に教わる〉今回僕は課題のレポートを書いているときに，鎌の研ぎ方を調べたときの事であった。インターネットで検索したが，なかなか納得のいくものが出てこず，父親に直接教えてもらった。鎌の研ぎ方を教えてもらうと，父親は「やれ鎌はこう持て」だとか，「やれ草はちゃんと手に持って刈れ」だとか，或いは祖父の草の刈り方など，いろいろととても有用なアドバイスをいただくことができた。そしてまた，大学生の僕として，父親と話すために実家に帰るよいきっかけとなり，非常に楽しい時間を過ごすことができた。こういった家族と関わるということで得られる事は，「自分にとっての有用な情報」だけではなく，家族とのふれあいが実現し，とても実りのあるものだということを実感した。

（考察）①の事例は林部信造氏と摘花作業を通して交流することによって，リンゴ農家の仕事の大変さに気付くとともに，その大変な農業を生きがいとしてとり組んでいらっしゃる林部信造氏への感謝の念が表されている点が優れている。②の事例は鎌研ぎの体験をとおして，インターネットによる理解ではなく，父親から直接に教わることによって，親子の交流が深まった事例であり，極めて貴重な気付きであると考えられる。

2.3 (3)「地域と生活」の項目に関する気付きと考察

①〈地域社会との連携〉まず一番身近に感じたのは，地域の方々との交流・支援でした。私たちは春から夏までを茂菅で野菜の栽培にとり組んできました。しかし，そのためには農作業ができる田畑を貸してもらえなければ，何も作れませんでした。また，リンゴの摘花作業を行ったときも，りんご畑のお手伝いをさせていただいて初めて行えたことであり，普通ではなかなか体験出来ない事柄です。農作業にせよ，摘花作業にせよ，地域の方々の多大なご協力があってのおかげであったと気付きました。

②〈リンゴ農家林部さんとの出会い〉農場までの道のりで地域の人に挨拶をすると，いつも温かい声をかけて下さった。また，りんご農家の林部さんや奥さんの話を聞いて，茂菅地区の歴史やりんご栽培の苦労について学ぶことができた。普段あまり関わりのない地域の方々とのつながりの大切さを知った。

③〈社会の一員としての自覚〉私たちがこの授業で実際に畑で作物を育てるという体験ができるのは，こういった活動を理解し，手を貸してくれる方々がいてくださるお陰なのだということは，頭ではよく理解しているが，実際にお手伝いに行き，直接お会いしてみると，こういう繋がりは，大切にしていかなくてはいけないということをすごく感じた。私たちが畑を借りる → そのお礼にりんごの摘花のお手伝いをする → 去年の先輩方が手伝ったリンゴをいただくというつながりは，自分が社会の一員として，他の誰かとつながっているんだということを気付かせてくれた。

④〈草刈りのルール〉草刈りはただ気付いたときに目についた場所の草を刈るだけではダメである。隣の畑の持ち主との境となっている畦の半分まで行うこと，畑の手入れ状況＝草刈りの具合で，周囲の人は私たちの畑について見ていること等のルールや評価があることを忘れてはならない。私たちの社会性が草刈りという行為一つにも関係しており，畑を地域の中で管理していくことによって，身近な地域の人々との結びつきが大きいことに気付いた。

⑤〈リンゴ農家との交流〉林部さんのリンゴ畑でお手伝いをさせてもらって，一つ一つ手作業でつみ取っていく作業の大変さに気付いた。この作業で今後のリンゴの成長にも何らかの影響を与えると考えると，より丁寧に心を込めてやろうと思った。林部さんのお話から，今まで知らなかった手間や作業もあることを知って，リンゴに対して，いままでよりも素晴らしい努力の成果なんだと思った。わずかな時間の作業だったけれど，授業の最後にリンゴをおいしく頂いて，こういう風に支え合い，過ごしていくのって素敵だなあと思えた。

（考察）生活科の学習指導の特質は，児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にするところにある。学生は教育学部から歩いても20分ほどの身近な場所に農場があり，地元の林部信造氏やJAながののご指導，ご協力によって11年も維持されてきていることを知って，素直に感謝の念を抱いている点が優れている。

また，林部信造氏のご協力に対する感謝の気持ちを込めて，初体験のリンゴの摘花作業

に熱心にとり組んでいるところが高く評価できる。こうして地域社会の中で，地域の方と触れあうことによって，地域社会とかかわることの大切さと，社会の一員としての自覚を深めていることが非常に優れているといえよう。

2.4　(4)「公共物や公共施設の利用」の項目に関する気付きと考察

①〈長野はすてきな田舎だ〉父の転勤で東京に7年ほど住んでいたことがあるが，もうここ10年はずっと長野での暮らしである。大学と家の行き来だけだと，山に囲まれているなーくらいしか思わないけど，茂菅の地は本当に旭山がどまん前にあって，裾花川があって，田んぼがあって，畑があって，とても開放的な気持ちになり，毎回，心が安らいだ。自然がこんなにも身近にあるって，贅沢であると思う。長野の誇りである。

②〈鍬の使い方〉鍬を使うのは小学生以来のことだった。乾燥して堅くなった土を細かくするのは大変だと思った。土を少し湿った状態にさせた方が上手く出来そうだということに気付いた。また，鍬は大きく振り上げたり，腕の力だけで動かしたりするのではなく，足や腰など体全体のバネを使うイメージで，耕した方がやりやすいという事に気付いた。

③〈作物を育てる環境の大切さ〉この授業が始まって茂菅に行き，「恵まれた環境だな」という印象を受けました。直ぐ近くには裾花川が流れていて，作物に水をやるのにも，作業時や作業後に利用するにも自然の水（無料）を引っ張ってこれるというのは，農作業をする上で非常に重要な点だということに気付きました。さらに，土について調べたところ，ミミズがいたり，適度な湿り気が保たれていたりと，土壌にも恵まれていることが分かりました。周囲もゴミ等が無く，農業のルールがしっかり守られていることの大切さにも気付くことができました。

④〈小さな稲がもたらす大きな収穫〉一本一本手作業で稲を植えていく作業で，足下はドロドロで何度も足がはまって転びそうになった。しかし，今回の作業で，印の付いたロープを持って真っ直ぐに植えられるようにしてくれた人，稲の苗を少しずつ容器に入れて補給してくれた人，一本ずつ植えていった人と，様々な役割をみんなが何らかの作業に関わって植えることができた。この体験は滅多にできないし，何より協力してできたことが嬉しかった。充実感が生まれるのを感じた。他にも今回の田植えを通して，あの水田から300 kgもの米が収穫できること，それは一家の一年分の生活にも相当することを聞いて，すごい量だと思った。この中から玄米で60キログラムをアフリカのマリ共和国に送ることも知った。世界の誰かと今，自分が踏んでいる地は繋がっている事にも気付いた。米ができるということだけでなく，地域や世界とも繋がっており，助け合う気持ちになれたことが大きな収穫だと思えた。

（考察）「信大茂菅ふるさと農場」は地主さんやJAながの，林部信造氏のご協力によるものであり，学生たちにとっては公共施設であるといってもよかろう。また，鍬や鎌，長靴，軍手などの道具は公共物であり，大切に使わなければならないことに気付いている。

また，茂菅の水田が国際協力田として位置づけられ，毎年60 kgの玄米をアフリカのマリ共和国へ送っていることを知り，農場を通して自分たちが地域や世界とも繋がっているという公共の自覚が生まれていることが非常に優れている。

2.5 (5)「季節の変化と生活」の項目に関する気付きと考察

①〈様々な生物のすみか〉茂菅農場では様々な生物に出会った。土にはミミズやオケラのようなもの，アリなど。水の中にはカエルやホウネンエビ，オタマジャクシなど様々な生物である。その中で気付いたのは，茂菅農場の豊かさだ。人間も同じであるように，人気のあるものには人が集まる。同じように様々なものを育てている茂菅農場には，様々な生物がよってくるのだ。茂菅農場が生物を支え，生物が茂菅農場に支えられていることに気付いた。

②〈リンゴの花に初めて触れて〉リンゴの摘花をした授業があり，その時私は初めて摘花を体験した。それほど小さくなく，弱そうにも見えず，農家の方も軽く花を摘んでいたので，私も軽く摘んでみようと思った。しかし，実際にやってみるとリンゴの花はとても落ちやすく，注意して摘まないとすぐに花が枝からとれてしまうことに気付いた。慣れない人は片手で摘むのではなく，片手で他の花を押さえながら，もう片方の手で摘むようにすると，花が落ちずに済むということが分かった。

③〈小さなたくさんの命〉まだ4月中旬頃の春のこと，畑に馴染み深いオオイヌノフグリがたくさん，そこら中に咲いていることに気付いた。色は青のような紫のような色で，小さく可憐な花であるのに，オオイヌノフグリという名前はおかしいのではないか，と気付いた。小さくても団結しているかのようにまとまって咲いているオオイヌノフグリは，小さな頃から様々な場所で見かけるが，詳しいことは何も知らないということに気付いた。また，前回の授業では咲いていたのに，今日の授業ではもう咲いていないことに気付いた。

（考察）茂菅の農場は完全無農薬であるので，①の事例に見られるように季節の変化に応じて，様々な生物が見られる。このことを通して生物が茂菅農場に支えられていることに気付いている点が優れている。また，②の事例は，摘花作業のコツを掴んだ点が優れている。③の事例は，オオイヌノフグリの咲く時季についての気付きであり，自然観察を継続した点が優れている。

2.6 (6)「自然や物を使った遊び」の項目に関する気付きと考察

①〈季節と共に変わる自然〉私の知らなかった，もしくは普段は気にとめない自然の存在に気がついた。茂菅農場では，多様な生き物がたくさんいた。ダンゴムシ，テントウムシ，カエル，豊年エビ，ミミズなど。また，植物も春にはヒメオドリコソウやナズナなどの花が咲き，夏になると青々とした葉が茂っていくような，季節と共に変わる自然にも気がついた。

②〈農作業の経験のある人，無い人〉農作業を実際にやったことがある人と，無い人とでは，やはり雑草取りや水やりなどにもモチベーションの差があるのに気付きました。単純にやる気のある，なしで分けることも出来ますが，家が農家の人は楽しんで作業しているのに対して，そうでない人は，他の人とのコミュニケーションの手段として作業しているようにも見えました。でも，作物が育っていくと愛着を持ってくれたようで，最初の頃と違った雰囲気で作業しているようにも見えました。農作業に慣れたというのもあるかも知れません。

(考察) ① の事例では，農作業をしながら様々な動物や植物に出会い，それらとかかわり，季節と共に変化する自然に気付いている点が優れている。② の事例では，農作業にとり組む姿勢の違いは，農作業の経験のある無しが大きく影響しているのではないかと考察している点が興味深い。

2.7　(7)「動植物の飼育・栽培」の項目に関する気付きと考察

①〈農業技術の進歩・発展〉一つめの気付きは，農作業の効率化ということです。私たちが活動する際に使った道具は，鎌や鍬といったものだけだったが，今は昔に比べると技術の進歩と共に，作業の効率化が格段に上がった。例として，現在はトラクターや田植機などは当たり前のように使われている。しかし，昔はそのような機械がなかったが故に，全て手作業でやらなければならなかった。そう考えると，このような技術の発達は，農業にも活用されるなど，幅広く進歩していると感じた。

②〈実際に手とり足とりで学ぶことの意義〉　私は小学生の時にもじゃがいもを植えることがありました。しかし，その時は外に出ることがまず楽しかったと感じていたことを覚えています。また，畑を耕すときにも，特に先生の指示を受けず自分なりに一生懸命に作業していた気がします。今は，先生になるために生活科指導法を学んでいます。鍬で耕すときに，私はあまりうまくいきませんでした。力一杯入れて耕しているのに，土を掘り起こせないのです。周りの友達や先生の様子を見て，マネしても上手くいきませんでした。そんなときに，土井先生が私に「梃子の原理を使ってごらん」とアドバイスをくださいました。そのお陰でそれからはスムーズに耕す事ができました。鍬の使い方を調べれば，イラストや動画で出てくると思います。でも，それを見たら出来るようになるかといったら違うと思います。私自身も失敗を繰り返し，先生や友達から助言してもらいできるようになったのです。もし，私が畑や水田での活動をしていなかったら，将来子どもたちに意味のある指導（マニュアル通りでないもの）が出来ないと思います。

③〈機械に頼るだけでなく，自分の手で作業することの大切さ〉今回の活動では，畑を耕すのは鍬を使い，草を刈るのは鎌を使い，鎌を研ぐことも砥石を使い，ほぼ全ての作業を手作業で行った。最近の農業では時間短縮や効率の良さを求めるために，ほとんどが機械によって行われている。しかし，今回の活動を通して，農業の大変さや楽しみ，喜びを知るためには，手作業で行うことが重要だと気付いた。自分の手で畑を掘ったり，

田植えをしたりすると，畑や田んぼに住む生物に目を向けることが出来たり，良い野菜や米を作るためには，最終的には人が手作業で工夫していかなければならないことを知った。このような活動によって，手作業での農業体験の大切さに気付くことができた。

④〈小さな変化を見つける力〉この活動を通して，様々な場面における「小さな変化を見つける力」が身に付いたと思う。最初は，芽が出たトウモロコシや雑草の増加など，分かりやすい変化しか見つけられなかったのに，最近では，リンゴの葉の色や，土の乾き具合など，小さな変化にも気付くことができるようになった。自然と関わっていると，感性が研ぎ澄まされて，自然のささいな変化を敏感に感じとることができるようになったと思う。

⑤〈ものや命を大切にする心〉私はこの授業を通して，物や命を大切にする心を学びました。私は実際にトマトとキュウリの苗を植えてからは，毎週どのくらい成長しているのかを見るのがとても楽しみになっていました。だんだんと愛着を感じはじめ，雑草を一生懸命ぬいたりして，すくすくと成長するように世話をしました。そして，キュウリが立派に育っているのを見たときは，とても嬉しかったです。生活科においての農作業は，このような物や命を大切にする心が自然と身に付くと感じ，子どもたちの心の成長にとって，とても重要な事であると思いました。

（考察）生活科では，具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養うことを究極的な目標としている。学生に具体的な活動や体験を促すために，茂菅での米づくりや野菜づくりのほとんどの活動においては，鍬と鎌による手作業で行っている。農業機械を使用する場は，水田の代かきと脱穀作業においてのみ林部信造氏のご協力をお願いしている。③の事例は，農業の大変さや楽しみ，喜びを知るためには，手作業で行うことが重要であることに気付いたもので高く評価できる。事例④では，野菜の栽培活動をとおして自然とかかわることによって，小さな変化を見つける感性が研ぎ澄まされたことを示しており，大きな成果といえる。

2.8 (8)「生活や出来事の交流」の項目に関する気付きと考察

①〈農作業における情報交換〉農場の活動は，自然を相手にした学習の場だとばかり思っていた。しかし，自分たちの水田に水を張るにも隣の田んぼから流れてくる水を活用しなければならず，畦の草刈りをするのも周囲の人々の田畑との協調性を図っていくことが必要である事を知った。農作業においては，作業の手伝いや情報交換など，地域の人々との繋がりが大切であることを学んだ。

②〈仲間と交流することの意味〉私は，春の最初の授業で自分に畑や水田での作業は出来るのだろうか？と不安に思っていました。理由は小学校での経験しかなかったからです。しかし，そんな不安は直ぐに吹き飛びました。それは，土井先生をはじめとする仲間と一緒に活動をしていたからです。少し暑く疲れてしまったときも，「あともう少しだよ！頑張ろう！」「きれいに雑草抜けたね！」「水やりありがとう」作業が終わると必

ず「お疲れ様」と労をねぎらってくれました。一番嬉しかったのは，自分の班で育てているミニトマトの実がなったときです。「トマトの匂いがするね！」「ここにも実がなっているよ！」「こんなに大きくなったね！」など，気付きを積極的に伝え合い，みんなで日々発見をしていました。これは一人で作業をしていたら絶対にできなかったと思うし，本当に楽しい活動になりました。

③〈仲間との協力〉今回の活動では，他学年・他専攻の学生と班を組み活動した。このことは，私にとって思った以上に大きな収穫となった。初めて話す人たちばかりだったのに，毎週の活動を通じていくうちに，キャンパス内で偶然会ったときも挨拶を交わすほどの仲になることができた。他の授業等でのグループ発表や部活動とは異なる新たな仲間として，一人では出来ない大変な作業を協力しながら進めることができた。

（考察）農作業は1班7名で10班に別れて行った。そして，作業の終わりには班ごとに今日の活動を通して気付いたことを振り返る時間を設けた。これによって学生同士の情報交換が行われ，人間関係が深まることをめざした。学生は共同の農作業を通して，仲間意識を強めていることは大きな成果といえる。また，仲間との交流だけでなく事例①のように，農作業を行っていく上で地域社会の人々との繋がりを大切にしていくことが重要であることに気付いているところが大変優れている。

2.9　(9)「自分の成長」の項目に関する気付きと考察

①〈責任感や積極性の向上〉私が茂菅農場で仕事をする上で気付いたのは，責任感や積極性が以前よりもさらについたという事でした。最初の頃はまだ，人によってすごくやる気のある人と，そんなに積極的に畑仕事に関わらない人というように，皆の気持ちの方向があまり良い方向へばかり進んでいないように感じました。しかし，野菜などの作物が育ってくるたびに皆のやる気が上がり，また，「野菜を育てなくては」という思いが前より格段に飛躍したように思いました。

②〈農作業は自身を映す鏡〉茂菅での活動や体験は，身近な人々を映す鏡だったと思う。茂菅での実習は，いつだって汗をかき汚れる仕事で，ただ楽しいだけではない。実際，多くの人はそれを傍観しているだけの所を見てしまった。しかし，その中でも積極的に関わろうとする人はいた。その中で私は，普段この人は不真面目そうだと思うような人が，一生懸命頑張っている姿を見た。全てがこれによって決まるわけではないが，茂菅で人の意外な一面に気づけたことが嬉しい。

（考察）茂菅での活動は，班ごとに取り組む畑の作業と10班が合同でとり組む水田での作業がある。①の事例では，班ごとの栽培活動に責任感と積極性を持ってとり組めたことを自己の成長として捉えているところが優れている。②の事例では，素足で水田に入ることをためらっている学生があった反面，水田に進んで入り汗をながしている学生もいたことから，「農作業は身近な人々を映す鏡」であると捉えているところが優れている。

3．まとめ

本稿においては，「信大茂菅ふるさと農場」における学生の気付きを，生活科の９つの内容項目に分けて列挙し考察を加えた。授業者としてうれしく思うことは，学生一人一人が非常に豊かな感性を持っており，シラバスにおいて目標としたことがほぼ実現されていることである。

この授業では手作業でできる範囲のことを実践したいと考えて，敢えて鍬と鎌だけを使う農作業に徹しているのであるが，学生はその趣旨を受け止めて，鎌研ぎをしてから作業にとり組んでいる。

謝辞

11 年目を迎えた「信大茂菅ふるさと農場」に対して，次のような虹の架け橋賞という表彰状が贈られた。

信大茂菅ふるさと農場　殿

貴組織は地域活性化につながる協同活動を展開し，その功績は極めて顕著であり他の模範となるところであります。よって長野県農業協同組合優良組合員組織等表彰・顕彰規則により記念品を授与し表彰します。

平成 22 年 11 月 9 日　　長野県農業協同組合中央会

会長　茂木　守

このような表彰状をいただき，身の引き締まる思いである。今後，一層努力していく決心である。ご指導をいただいている JA ながの営農指導部の皆様，林部信造氏，そして，学生の皆さんに深く感謝します。

註

(1) https://campus-2.shinshu-u.ac.jp/syllabus/syllabus.dll/Display?NENDO=2010&BUKYOKU=E&CODE=E5340010

参考文献

土井進（2009）「信大茂菅ふるさと農場を教材とした総合演習（米づくりと食育）の実践」，『教材学研究』第 20 巻，日本教材学会，pp.209-216.

赤峰勝人(2008)『循環農法』，なずなワールド.

木村吉彦（2008）『気付きの質を高める生活科 12 カ月』，学校図書.

木村吉彦(2008)『大学における「生活科・総合学習」授業の探究』，上越教育大学.

土井進(2008)「信大茂菅ふるさと農場」10 年目の「人づくり」戦略―信大茂菅農業義塾の開設―」，『地域ブランド研究』VOL.4，pp.70-96，信州大学人文学部.

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説・生活編』.

土井進編(2005)『信大茂菅ふるさと農場における教育実践研究—JA ながの・長野市茂菅地区農家との連携—』，信州大学教育学部教師教育学研究室.

（2010年10月19日　受付）
（2011年２月15日　受理）